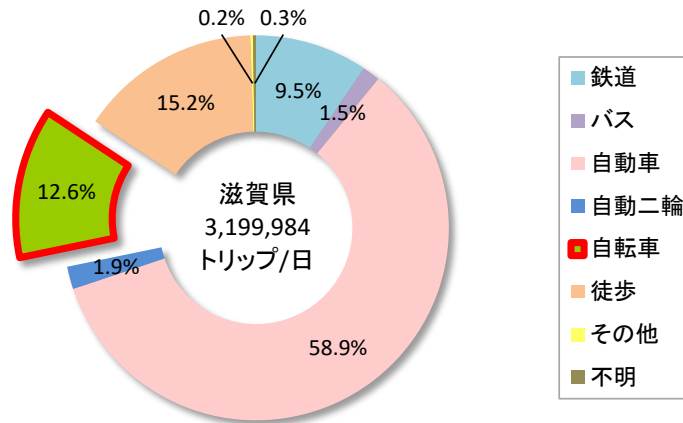




2.2 自転車利用の現状

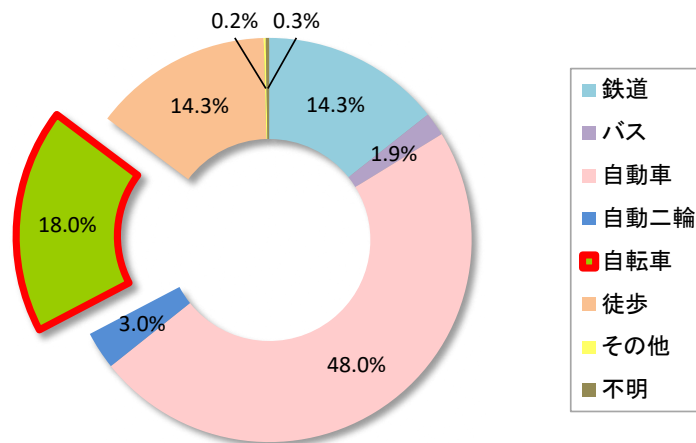
(1) 代表交通手段分担率

滋賀県における自転車分担率（※）が 12.6%であるのに対し、草津市の分担率は 18.0%であることから、鉄道やバス、自動車など様々な交通機関がある中で、自転車を利用している市民は多くいます。



資料：第5回近畿圏パーソントリップ調査（京阪神都市圏交通計画協議会）
 における代表交通手段構成（発生量）より集計

滋賀県の自転車分担率



資料：第5回近畿圏パーソントリップ調査（京阪神都市圏交通計画協議会）
 における代表交通手段構成（発生量）より集計

草津市の自転車分担率

※自転車分担率 … 人が移動するために利用した交通手段の割合のこと。



(2) 自転車保有台数

滋賀県では、平成 30 年度の推計自転車保有台数は 86.5 万台（全国 22 位）、1 世帯当たりの推計自転車保有台数は 1.595 台（全国 1 位）となっています。これをもとに推計すると、草津市内には、約 86,000 台の自転車が保有されており、平成 20 年度以降、人口増加によって市内の自転車保有台数も増加していることがうかがえます。

滋賀県・草津市の推計自転車保有台数

	県／市	平成 20 年度		平成 30 年度
1 世帯あたり 自転車保有台数	滋賀県	1.438 台	➔	1.595 台
	滋賀県	81.7 万台		86.5 万台
自転車保有台数	草津市	7.3 万台		8.6 万台

※草津市の自転車保有台数は、滋賀県の自転車保有台数をもとに人口比で推計

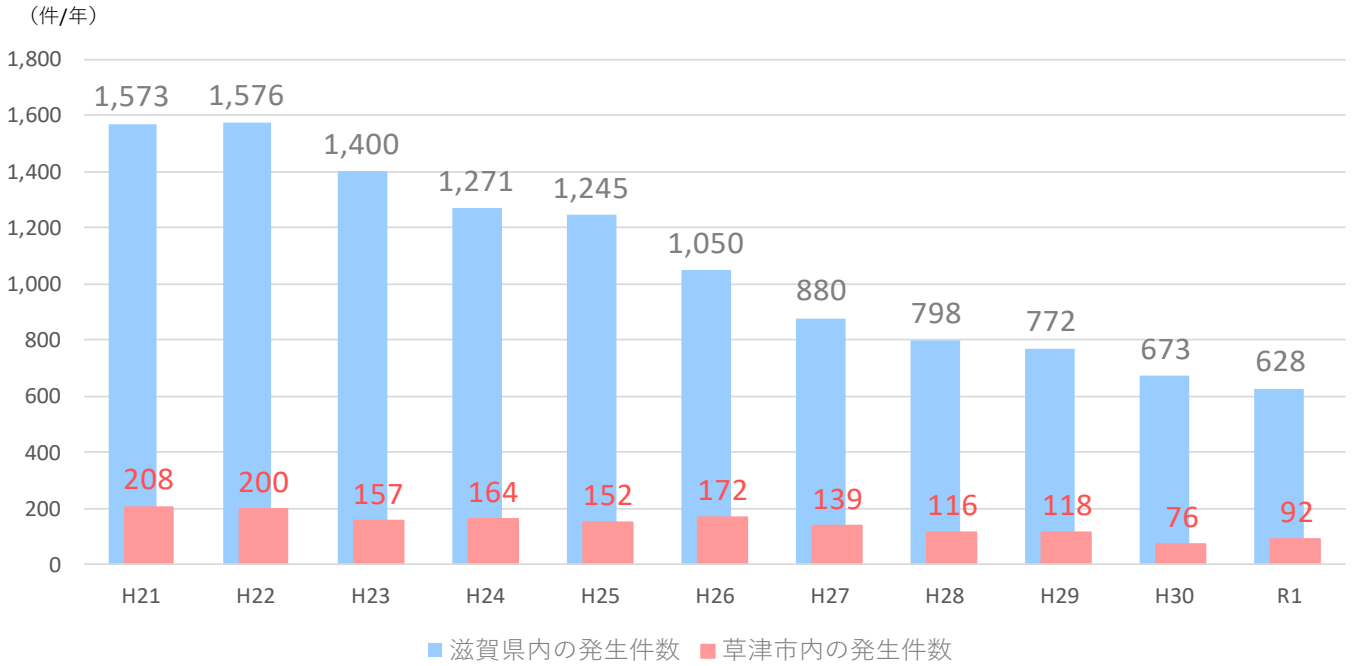
資料：(社) 自転車協会資料、(一社) 自転車産業振興協会資料、

滋賀県推計人口年報



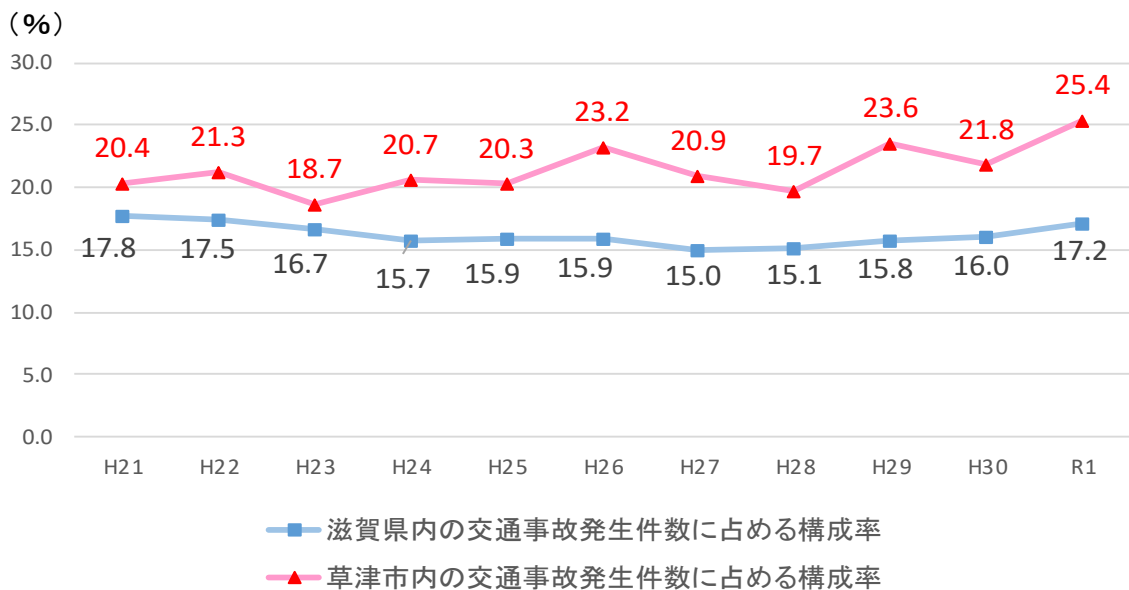
(3) 自転車事故

草津市では自転車の保有台数が増加していると推計される一方で、自転車事故の件数は若干の減少傾向で推移しており、交通事故発生件数に占める自転車事故の構成率は20%台で推移しています。平成26年度から配置している草津市自転車安全安心利用指導員を平成28年度に増員し、自転車の安全利用に関する街頭指導・啓発に取り組んできた成果が表れてきていると考えられます。



自転車事故の発生件数

資料：滋賀県警察本部統計データ



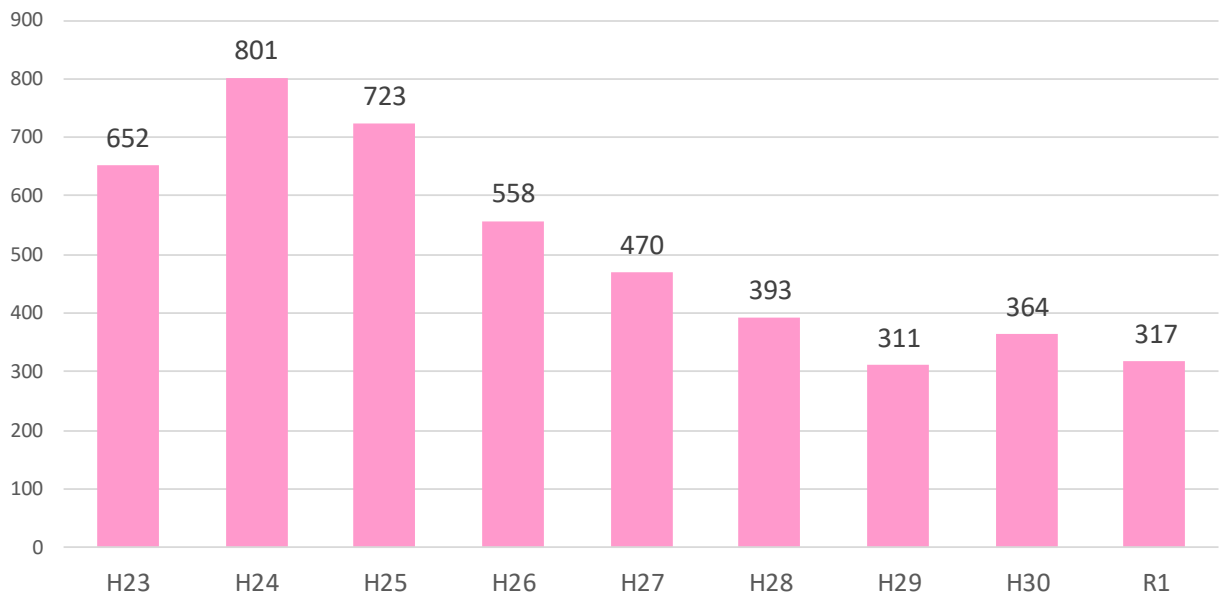
交通事故発生件数に占める自転車事故の構成率

資料：滋賀県警察本部統計データ



(4) 自転車の盗難

草津市では、平成 24 年をピークに自転車盗難の発生件数は減少傾向にあります。しかし、草津市内での犯罪別のワーストランキングでは、「自転車盗」は 1 位を占め (33.9%)、滋賀県内の他市町と比較しても、草津市は総犯罪件数に占める自転車盗難の割合が最も高いことから、引き続き自転車の防犯診断の実施などの自転車盗難防止の啓発に取り組む必要があります。



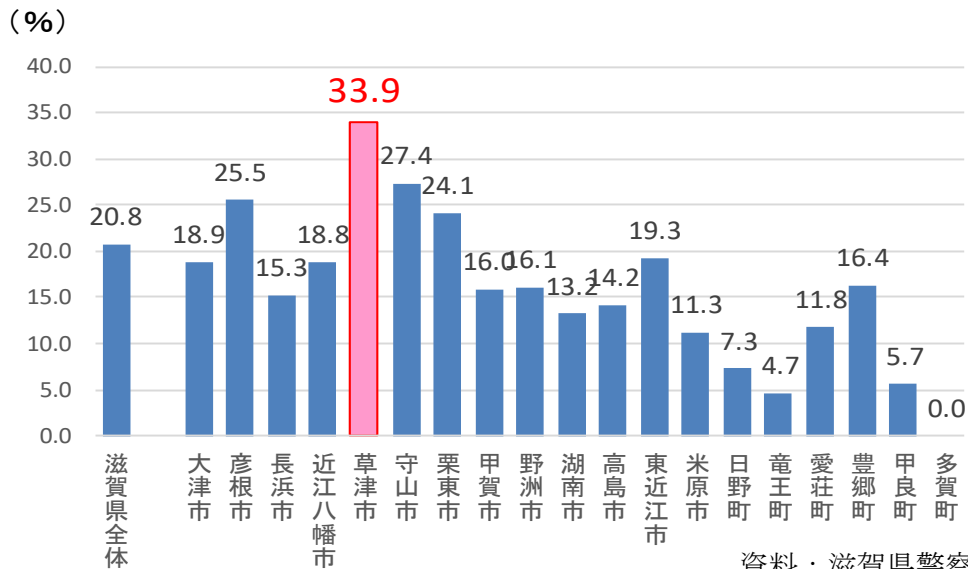
資料：滋賀県警察本部統計データ

草津市の自転車盗難発生件数の推移

草津市内の犯罪別ワーストランキング

	犯罪名	H23	H27	H28	H29	H30	R1	増減 (H30-R1)
1位	自転車盗	652件 (35.2%)	470件 (29.6%)	393件 (28.0%)	311件 (25.0%)	364件 (32.8%)	317件 (33.9%)	-47件
2位	万引き	214件 (11.6%)	208件 (13.1%)	201件 (14.3%)	167件 (13.4%)	117件 (10.6%)	132件 (14.1%)	15件
3位	器物損壊	159件 (8.6%)	157件 (9.9%)	143件 (10.2%)	138件 (11.1%)	102件 (9.2%)	78件 (8.4%)	-24件
	総犯罪件数	1,850件	1,590件	1,404件	1,246件	1,109件	934件	-175件

資料：滋賀県警察本部統計データ

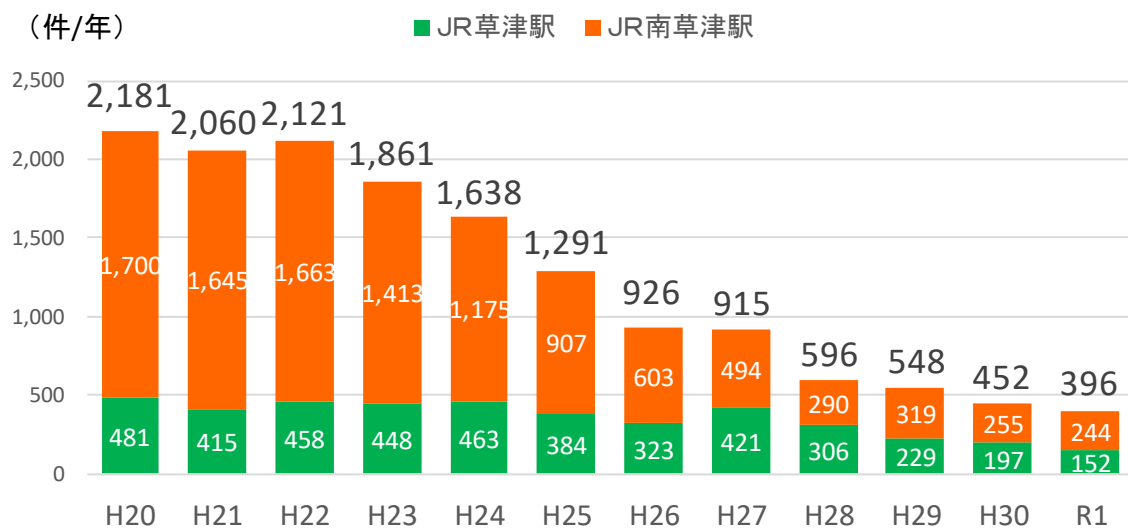


資料：滋賀県警察本部統計データ

令和元年 滋賀県内の総犯罪件数に占める自転車盗難件数の割合

(5) 放置自転車の撤去台数

草津市では、景観を損ねるばかりではなく、歩行者の通行の妨げや交通事故の原因、緊急時の防災活動の支障となる放置自転車等の撤去を行っています。撤去台数の総数は年々減少してありますが、特に近年の撤去台数の減少は著しく、本計画期間以前の平成27年度と比較しても4割程度にまで減少しています。市内の自転車保有台数が増加していると推計される一方で自転車撤去台数が減少している背景には、放置自転車禁止の啓発に加え、駅前自転車駐車場の駐車可能台数を増加したことも一因と考えられることから、引き続きこれらの取り組みを推進していくことが効果的と考えられます。



資料：草津市交通政策課データ

自転車等放置禁止区域における自転車撤去台数

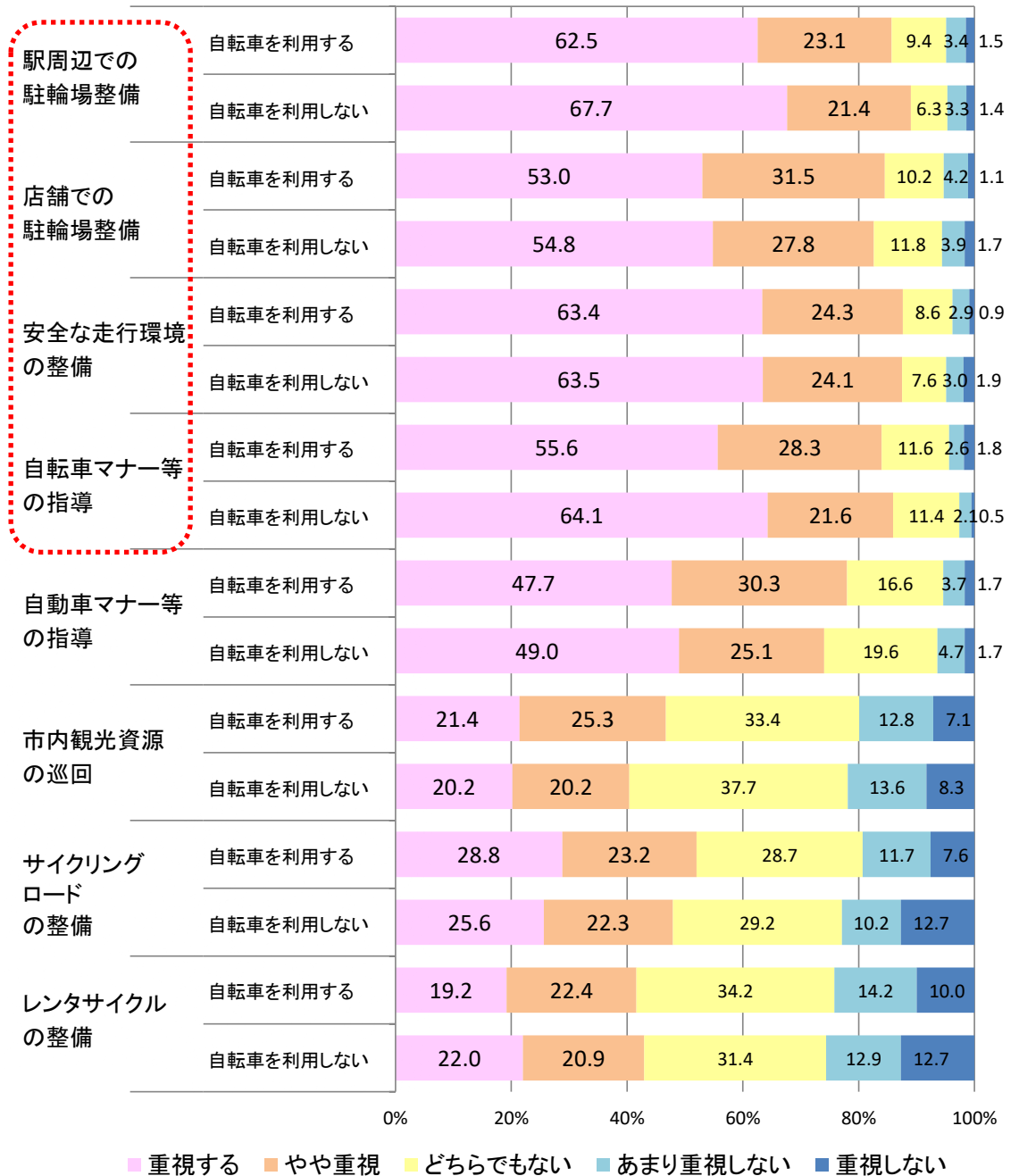


2.3 自転車への市民ニーズおよび自転車利用のメリット

(1) 市民のニーズ

1) 自転車を利用しやすい環境づくりに必要な要素

多くの市民が自転車を利用しやすい環境づくりに“駐輪場の整備”、“安全な走行環境の整備”、“自転車マナー等の指導”が必要であると感じています。



資料：草津市民の交通に関するアンケート調査^{注)}

自転車を利用しやすい環境づくりに必要な要素



注) 草津市民の交通に関するアンケート調査

現況の交通行動や公共交通サービスの満足度・重要度の把握を行うとともに、交通ニーズを探ることを目的に実施したアンケート調査。

【調査概要】

調査日 : 平成 24 年 11 月 5 日 (月) に発送

調査方法 : 郵送配付・郵送回収

調査対象 : 住民基本台帳を基に無作為抽出した草津市民 (18 歳以上)

配付数 : 6,000 部

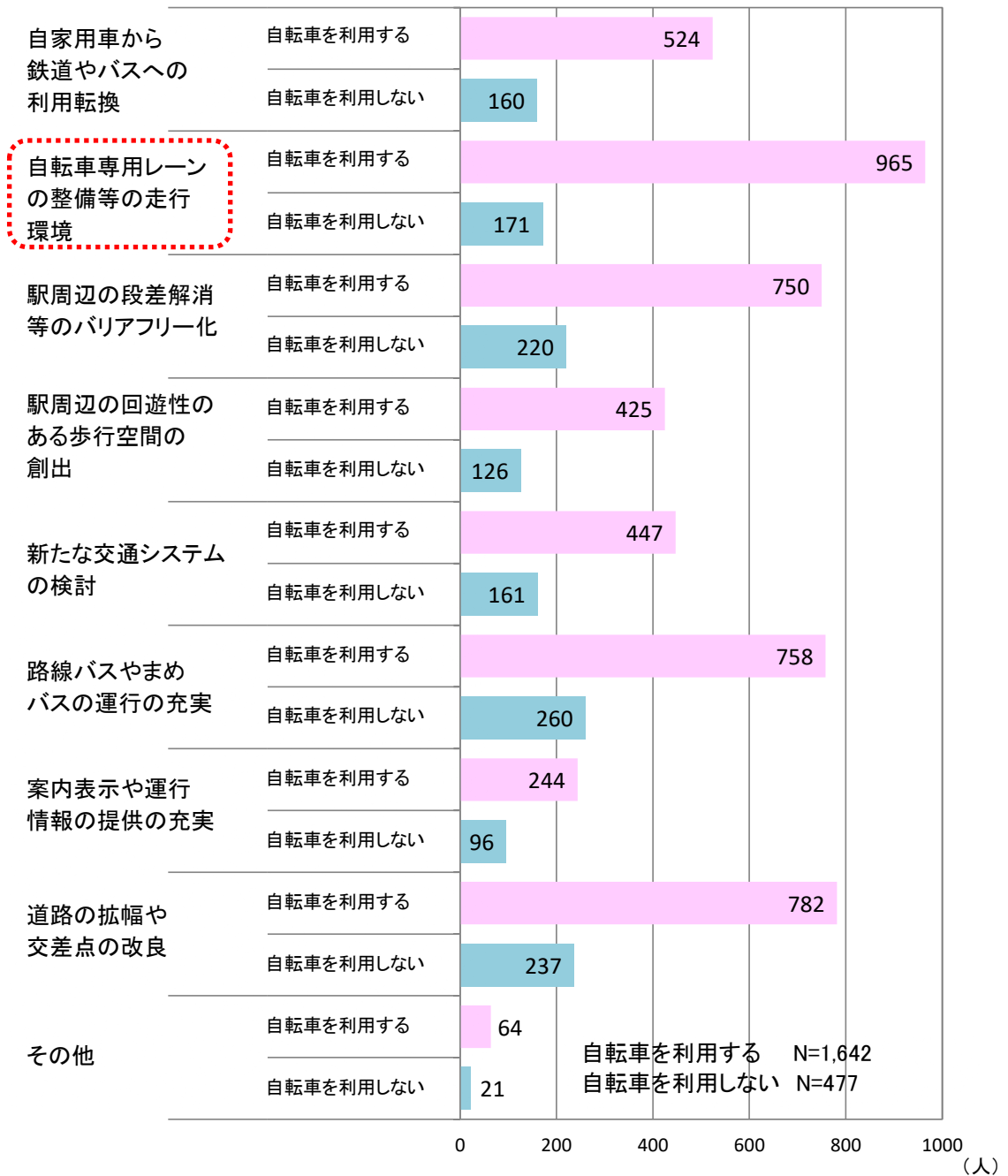
回収数 : 約 2,100 部 (回収率 35%)

調査内容 : 回答者の属性、歩行環境、自転車の利用環境、公共交通の利用環境、
将来交通のあり方、自由記述



2) 今後 10 年先の交通環境整備の方向性

今後 10 年先を見通した草津市全体の交通環境を整えていく上で、多くの自転車利用者が「環境や健康づくりなどのため、自転車を活用しやすいよう、自転車専用レーンの整備などの走行環境を整える」ことを優先していきべきだと考えています。



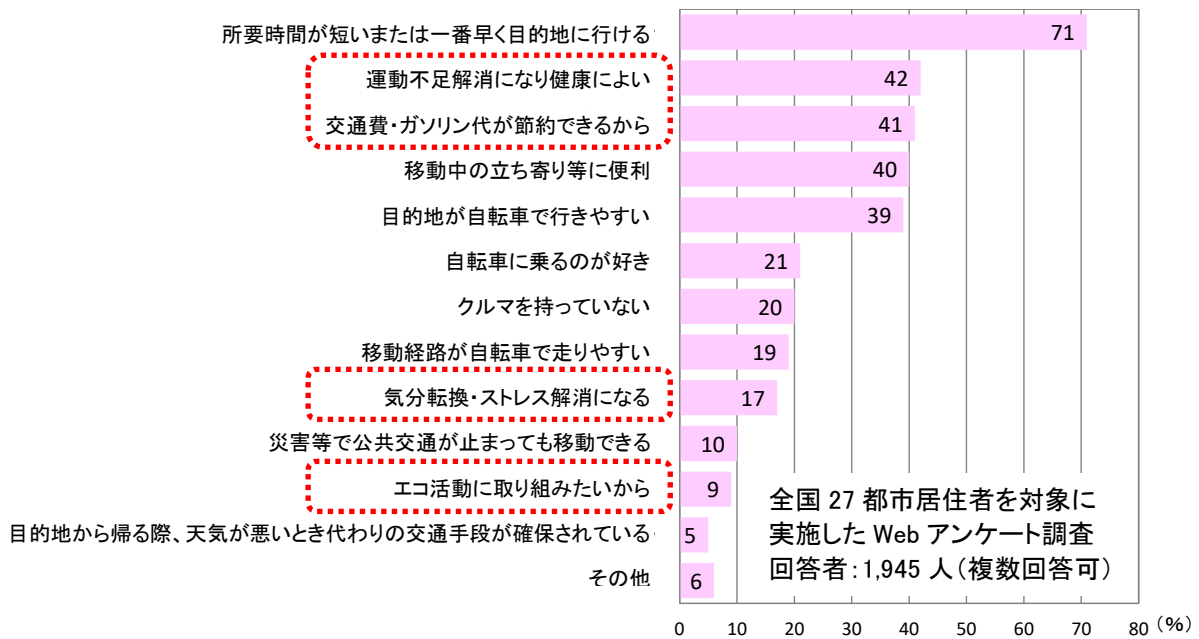
資料：草津市民の交通に関するアンケート調査

今後 10 年先の交通環境整備の方向性



(2) 自転車を日常的に利用する理由

国土技術政策総合研究所が実施したアンケート調査によると、自転車を日常的に利用する理由として、「運動不足解消になり健康にいい」「交通費・ガソリン代が節約できるから」などが多いです。健康増進や家計等の節約だけでなく、気分転換や環境保全など、利用する理由が多様化しています。



資料：第 1 回「安全で快適な自転車利用環境創出の促進に関する検討委員会」配付資料
国土技術政策総合研究所 平成 24 年 1 月実施の WEB アンケート結果

(3) 自転車利用のメリット

1) 健康増進効果

自転車は、通勤通学や買い物など、日常生活での短い距離の移動に利用することで、目的地へ移動をしながら、適度な運動をすることができる両得な移動手段です。また、自転車は身体への負担も軽く、カロリー消費量も高い交通手段であるなど、健康的な乗り物といえます。

交通手段	クルマ	電車・地下鉄	バス	じてん車	徒歩
カロリー消費量 (kcal/分)	1.7	2.19	2.19	14.5	3.3

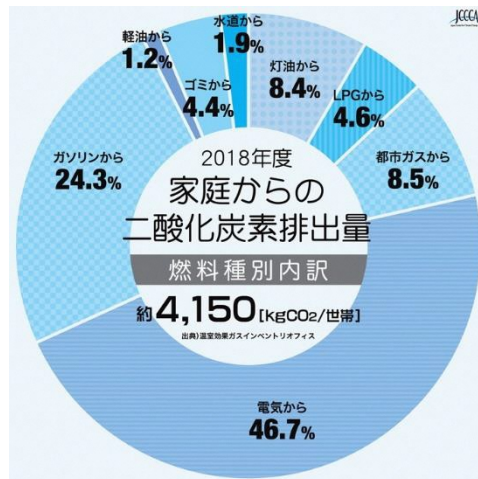
出展：「第 6 次日本人の栄養所要量」(厚生労働省：平成 11 年)

資料：「第 6 次日本人の栄養所要量」(厚生労働省：平成 11 年)
『モビリティ・マネジメント施策評価のためのガイドライン』P. 17 から引用
※ (社) 土木学会、日本モビリティ・マネジメント会議実行委員会：H22. 1



2) 環境負荷の削減

自動車から排出される二酸化炭素は、1世帯あたりの年間排出量の内の約1/4を占めています。一方で、自転車からは二酸化炭素は排出されないため、移動に伴う環境への負荷はありません。したがって、市民が「自動車」による交通手段から「自転車」や「公共交通」を利用するように行動していけば、自動車交通量が減ることによる交通渋滞の解消や、環境負荷の削減にも繋がります。



資料：温室効果ガスインベントリオフィス
(全国地球温暖化防止活動推進センターweb サイトから引用)

3) 家計等の節約

自動車利用はガソリン価格に大きく影響するだけでなく、自動車税や定期点検などの維持費用もかかります。一方、自転車は維持費用がほとんどかかりません。

例えば、5kmの短い距離を、毎日自動車ではなく自転車を利用した場合、年間で約14,200円も節約できます。

また、生活習慣病の予防など健康づくりにも役立つことから、医療費の削減にも繋がります。

$$\begin{aligned}
 \text{燃料費 (円/年)} &= (\text{移動距離 (km/年)}) \div (\text{燃費 (km/ℓ)}) \times (\text{ガソリン代 (円/ℓ)}) \\
 &= (365 \text{ 日} \times 5\text{km}) \div 17.6\text{km/ℓ} \times 136.8 \text{ 円} \\
 &\approx 14,200 \text{ (円/年)}
 \end{aligned}$$

燃費：国土交通省自動車燃費一覧の JC08 モード (平成 30 年度) の 2 割減の値 (実際の燃費)

ガソリン代：経済産業省資源エネルギー庁の石油製品価格調査

(令和 2 年 3 月 30 日 時点滋賀県レギュラーガソリン)



2.4 課題および具体的施策の方向性

自転車利用の実態から見えてくる草津市の課題と、課題等から見える具体的施策の方向性を下記のとおり整理します。

実態

■人口関係

- ・草津市の人口は増加している
- ・企業や大学に通っている人が多い
- ・高齢化率が伸びている

■利用環境関係

- ・自転車通行空間の整備済距離が 8,430m
- ・市営駐車場の収容台数は草津駅周辺で 3,150 台、南草津駅周辺で 2,972 台
- ・放置自転車台数は減少傾向にあるものの、継続して発生している
- ・自転車の盗難件数が多い

■事故関係

- ・市内の自転車事故発生件数は 減少傾向にあるものの、継続して発生している
- ・市内の交通事故発生件数に占める自転車事故の割合が高い

■その他

- ・健康増進効果、環境負荷の削減、家計等の節約

課題

自転車の走行空間の整備

自転車盗難の多さ

駅周辺での駐車台数の確保

自転車利用者のルール違反やマナーの低さ

放置自転車の発生

自転車に関係する事故件数の多さ

目標（実態・課題から見える具体的施策の方向性）

○安全で安心して利用できる自転車道のネットワーク化および走行空間の整備を目指す

○自転車駐車台数の確保、過去10年間で最低である放置自転車撤去数（396件）からのさらなる減少を目指す

○自転車のルール遵守やマナーの向上、過去10年間で最低である自転車関係事故件数（76件）・自転車盗難件数（311件）からのさらなる減少を目指す

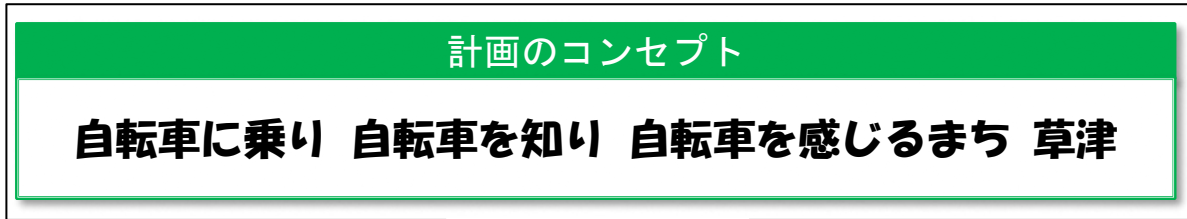
○自転車の有効活用、健康増進効果などを啓発し、自転車利用への転換を目指す



3. 計画の基本方針

3.1 計画のコンセプト

草津市の自転車利用における実態や課題から見える具体的施策の方向性をもとに、本計画のコンセプトを設定します。



3.2 基本方針

本計画のコンセプトの実現に向けて、基本方針として5つの柱を設定し、各施策および取り組みを展開していきます。

- 「安全」を感じる : <キーワード> 「適正」「マナー」「学び」
- 「安心」を感じる : <キーワード> 「守り」「もしも…」「安堵」
- 「快適」を感じる : <キーワード> 「清浄しさ」「思いやり」「秩序」
- 「厳しさ」を感じる : <キーワード> 「責任」「悲しみ」「車意識」
- 「スマート」を感じる : <キーワード> 「賢さ」「エコ」「健康」

『自転車に乗り 自転車を知り 自転車を感じるまち 草津』の実現



5つの柱（相互連携しながら一体的に推進）



3.3 各柱の施策

基本方針として設定した5つの柱において、下記の各施策を展開していきます。

基本方針①：「安全」を感じる

1. 自転車の安全利用の啓発
2. 自転車の安全利用のルール・マナーの周知、徹底
3. 自転車の安全安心利用教育の推進

基本方針②：「安心」を感じる

1. 自転車の盗難防止の啓発
2. 自転車の保険加入義務化の周知
3. 自転車の点検・整備の促進
4. ヘルメットの着用の促進

基本方針③：「快適」を感じる

1. 自転車の走行空間の整備
2. 放置自転車の削減
3. 自転車駐車台数の確保

基本方針④：「厳しさ」を感じる

1. 違反者に対する指導、取締りの強化
2. 損害賠償事例の紹介、啓発
3. 道路交通法違反、罰則の周知、徹底

基本方針⑤：「スマート」を感じる

1. 自家用車等から自転車への利用転換の推進
2. 公共交通機関へのアクセス性の強化
3. 自転車の有効活用の推進
4. 環境や健康にやさしい自転車利用の推進